

WORLD HERITAGE

NEWS

世界遺産ニュースレター

Letter

世界遺産富士山の  
後世継承のために

特集

静岡県富士山世界遺産センター 新収蔵品紹介

狩野董川中信筆 富士飛鶴図

「富士山の日」フェスタ2019

静岡県富士山世界遺産センターからのお知らせ

常設展示「育む山」リニューアル

研究員コラム

富士山絵画の正統

vol.

39

Spring, 2019

狩野董川中信筆 富士飛鶴図 一幅 絹本着色

狩野董川中信（一八一〜一七七一）は、幕末期の江戸画壇を牽引した巨匠狩野伊川院栄信（一七七五〜一八二八）の五男で、奥絵師浜町狩野家八代を継承します。長兄は江戸城障壁画も手がけた晴川院養信（一七九六〜一八四六）。明治期にアーネスト・フェノロサの協力者として活躍する友信（一八四三〜一九一三）は長男。弘化元年（一八四四）法眼に叙されました。

晴川院が主導した天保度・弘化度江戸城障壁画制作に主要メンバーとして参加するとともに、晴川院の『公用日記』にしばしば名前が記されるなど、董川は実弟として晴川院の信頼を得ていたことがわかります。彼はまた、甥の狩野勝川院雅信（一八二三〜一八〇）や弟の永徳立信（一八一五〜九二）、板谷弘延（一八二〇〜五九）、住吉弘貫（一七九三〜一八六二）らと安政三年（一八五六）オランダ国王ウィレム三世へ贈答した屏風を制作するとともに、明治二年（一八六九）には勝川院、永徳と明治政府の洋風迎賓施設であった延遼館の障壁画にも彩管をふるいました。江戸と明治、二つの時代の過渡期に生きた画家といえます。

本作は、縦長の画面に富士山と浜松、飛翔する鶴の群れを描きます。富士山は狩野派定型の外隈による三峯型で描写され、背景やすり霞には、グラデーションをつけつつ群青や金泥が刷かれま

す。

背景に青系統の絵具を塗る本作は、狩野伊川院栄信筆「郭子儀花鳥図」（個人蔵）をはじめとする江戸後期狩野派の作風にしたがうとともに、狩野晴川院養信筆「花見遊楽図」（京都国立博物館）、同「富士に宝船・三保松原図」三幅対（ハーヴァード大学美術館）など同時代の富士山図とも通います。

金泥をともなう極彩色で富士山、鶴、浜松の吉祥モチーフを連ねる本作は、本紙が縦一三〇センチを超える大幅であり、婚礼など將軍家や大名家のモニュメンタルな吉事に際し調進された可能性が考えられます。本作の伝来については不明ですが、牡丹唐草や松竹梅をあしらった金欄による

中廻しや天地、靈芝や珊瑚、七宝、打出の小槌など宝尽くしをモチーフとした金蒔絵の軸先など破格の豪華さを誇る表装は、本作の特殊な成立事情をほのめかします。



狩野董川中信筆 富士飛鶴図



同左蒔絵による軸先

本年秋の企画展にて  
公開予定

# 「富士山の日」フェスタ2019

平成31年2月23日、静岡・山梨両県は、御殿場高原ホテルにおいて、平成最後となる「富士山の日」フェスタ2019を開催しました。

関係者約300人が出席される中、川勝知事、渥美県議会議長などの挨拶に続き、両県の富士山世界遺産センター研究員による研究成果の発表や国文学者の中西進氏による記念講演が行われました。静岡県富士山世界遺産センターからは、松島仁教授が「富士山イメージの政治学―徳川将軍を中心に―」と題して、第三代将軍徳川家光が富士山と関わりを持った歴代の権力者の系譜に自らを重ね合わせる政治的行為を行ったことなど、研究成果の一端を披露しました。

静岡県が条例で2月23日を「富士山の日」と定めてから、今年で10回目の「富士山の日」となりました。この間、平成25年6月に富士山が世界文化遺産に登録されたほか、平成28年6月に山梨県、平成29年12月に静岡県の富士山世界遺産センターが相次いでオープンしました。

両県は引き続き連携し、富士山を保全するための取組を着実に進めるとともに、富士山世界遺産センターでは、国内外から訪れる多くの皆様に、富士山の顕著な普遍的価値を伝えてまいります。



研究成果を発表する松島教授



## 静岡県富士山世界遺産センターからのお知らせ 常設展示「育む山」リニューアル

センター3階の常設展示「育む山」のゾーンに、富士山の自然をより視覚的に知ることのできるコーナー「富士山の自然環境」を新設し、平成31年1月1日から公開いたしました。富士山は、駿河湾の海底から計測すると6000mを超える高山であり、標高にあわせて自然環境が大きく異なることから、多様な生態系を有しています。

このコーナーでは、富士山が育んだ豊かな自然環境を、アクリル封入した標本や乾燥標本、3Dプリンターにより製作したレプリカ、写真、シルエットを用いて展示しています。

### 見どころ

- 富士山を代表する植物フジアザミのアクリル封入標本
  - フジアザミの大きな葉や頭花、きれいな花の色が観察できます。
  - ミツクリザメやツキノワグマ、オコジョなどの実物大シルエット
  - 普段近くで見ることのできない動物や海洋生物の大きさが実感できます。
- このリニューアルは、ふじのくに地球環境史ミュージアムの研究員の全面協力を得て実現しました。

### 映像シアター「宙の巻」公開

来館者の皆様に大好評「映像シアター」において、現在公開中の「天の巻」「地の巻」に続く新番組、「宙の巻」が3月21日に公開を迎えました。宇宙からの富士山を4K映像でお楽しみ下さい。

### 公式ホームページ・公式フェイスブックの御案内

富士山世界遺産センターに関する最新情報を随時更新いたします。公式ホームページには、企画展、イベント情報のほか、団体観覧申込、教育団体申込の書式を掲載しています。

### 企画展の御案内

- 4月27日～5月26日 「徳川将軍と富士山」
- 6月15日～8月18日 「かぐや姫と富士山」(仮)

# 富士山絵画の正統

静岡県富士山世界遺産センターでは、二〇一八年秋、はじめての特別展「富士山絵画の正統―十九世紀狩野派の旗手 伊川院栄信と晴川院養信」を開催しました。

富士山の美しい姿は、古来絵姿として伝えられてきました。とりわけ東西の往還が盛んとなる中世以降には、富士山は単独の絵画主題としても描かれるようになり、やがて伝雪舟筆「富士三保清見寺図」（永青文庫）、さらにそれを「本歌」とした狩野探幽による定型も成立し、日本人の視覚イメージや景観認識を規定していきます。

江戸時代中〜後期になると、富士山は新しい首都江戸の標徴シンボルとみなされ、絵画作品に頻繁に登場するようになります。とりわけ十八世紀末から十九世紀にかけては、葛飾北斎（一七六〇〜一八四九）や谷文晁（一七六三〜一八四〇）、酒井抱一（一七六一〜一八二九）ほかの巨匠が綺羅星のごとく登場した江戸画壇の黄金時代でしたが、彼らが競ってとり上げた画題が富士山でした。この時代には葛飾北斎画『富嶽三十六景』に代表される富士山絵画の連作が次々と制作されるとともに、立身出世や長寿を示す「富士越龍図」のような吉祥画など、さまざまな富士山絵画の主題や定型が生み出されました。富士山絵画の型が成立しジャンルとして定着したのが江戸時代であり、いわゆる「化政文化」を育んだ十九世紀前半の江戸は、その百花繚乱の季節でした。

こうしたなか将軍家御用絵師筆頭の狩野伊川院

栄信なごのぶ（一七七五〜一八二八）・晴川院養信せいせんいんおきのぶ（一七九六〜一八四六）父子は、探幽以来の型を継承し同時代の新傾向にも目を配りつつ画壇を牽引した、富士山絵画の正統でもありました。

「江戸文化のなかの富士山」シリーズの第一回となる本特別展では、狩野伊川院栄信・晴川院養信を定點とし、富士山絵画の定型の成立と展開について、前後期二部構成により通覧しました。

第一部「定型の生成とその変奏」（九月二十二日〜十月十四日）では、前述した雪舟や狩野探幽による富士山絵画の定型がいかに変奏しつつ伊川院・晴川院父子に継承されたかについて検証し、メイנסトリームの系譜を確認しました。いわばタテ軸からの通史的アプローチといえます。なかでも伊川院が表側の「竹林七賢図」、晴川院が裏側の「富士三保松原図」を描いた臨濟寺（静岡市葵区）の襖絵は、狩野派正系による障壁面形式の富士山図として貴重なもので、寺外では初公開となりました。

一方、十九世紀前半、文化から文政、天保期の江戸画壇は、上記のように諸派が角逐した百花繚乱の時代でした。この時期には伊川院・晴川院父子のほか狩野素川章信、狩野了承賢信ら江戸狩野派の画家たちも活躍し、探幽以来の祖法にとらわれない新機軸を打ち出しました。第二部「巨匠たちの競宴 富士越龍」（十月二十日〜十一月二十五日）では、「富士越龍」というテーマに着目しつつ十九世紀前半の江戸画壇を横断的に通覧し、そこ

に伊川院と晴川院の画業を定位しました。こちらはヨコ軸からの共時的アプローチといえるでしょう。第二部では、葛飾北斎の遺作として広く知られる「富士越龍図」（北斎館）とほぼ同図様ながら倍以上の法量を誇り、佐久間象山の賛も伴う北斎筆「不二越龍図」のような興味深い作品も出陳しました。

特別展には約一万四〇〇〇人の来場者をお迎えし、好評のうちに幕を閉じることができました。本年十二月には「江戸文化と富士山」シリーズの第二弾を開催する予定です。ご期待ください。

（松島 仁）



「富士山絵画の正統」展第二部展示風景